

製品安全データシート

作成:2015年04月09日

改訂:2016年10月11日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	CyStain® PI Absolute P
構成試薬	Staining Buffer Nuclei Extraction Buffer Propidium Iodid Solution RNase
会社名	シスメックス株式会社
所在地	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 シスメックス株式会社 テクノパーク
連絡先	〒651-2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4 TEL : (078) 991-1911 (代表) FAX : (078) 991-1917

[Staining Buffer]

2. 危険有害性の要約

GHS 分類の記載	
物理化学的危険性	区分外
健康に関する有害性	区分外
環境に対する有害性	区分外
GHS ラベル要素	
GHS 絵表示	なし
喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物
化学的特性に関する情報	液剤
危険有害成分	なし

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	接触部位を直ちに水と石鹸でよく洗い、必要なら医師の診断を受ける。
目に入った場合	清浄な流水で、15分以上洗眼し、必要なら医師の診断を受ける。
飲込んだ場合	直ちに医師治療を受ける手配をする。無理に吐かせないこと。意識が無い場合は決して口からものを与えない。
応急措置をする者の保護	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災により、一酸化炭素、二酸化炭素等が発生することがある。
消火を行う者の保護	火災の場合は、自給式の呼吸器及び耐熱性保護衣を着用す

る。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	セクション7および8を参照。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法・機材	自然水、下水、土壌中への流出を避ける。 砂、珪藻土、ユニバーサルバインダー等の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、廃棄する（廃棄方法についてはセクション13. 廃棄上の注意を参照）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱	
技術的対策	セクション8. 曝露防止及び保護措置に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	使用前に取扱説明書を入力すること。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。消防法の規制に従う。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。充填、取り出し、取扱い時に圧縮空気を使用してはならない。接触、吸入又は飲み込まないこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管	
適切な保管条件	消防法の規制に従う。容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。酸化剤、酸、塩基から離して保管する。
容器包装材料	情報なし

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度	情報なし
許容濃度	
日本産業衛生学会	情報なし
ACGIH	情報なし
設備対策	情報なし
保護具	
呼吸の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。換気が十分でない場合には、適切な呼吸用の保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	適切な衣類を着用すること。しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服（例えば、酸スーツ）及びブーツが必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理的性状、形状、色など	液体
臭い	情報なし
pH	7.5
引火点	情報なし
比重（相対密度）	情報なし
溶解度	情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱いでは安定
危険有害反応可能性	通常の場合では危険有害な反応は起こらない
避けるべき条件	通常の場合では特になし
混触危険物質	酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	通常の場合では発生しない

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発癌性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回曝露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復曝露）	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

[Nuclei Extraction Buffer]

2. 危険有害性の要約

GHS 分類の記載	
物理化学的危険性	区分外
健康に関する有害性	
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2
環境に対する有害性	区分外
GHS ラベル要素	
GHS 絵表示	
喚起語	危険
危険有害性情報	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

注意書き	取扱後は手と顔をよく洗うこと。
安全対策	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 内容物/容器を地域の条例等に従って廃棄すること。
廃棄	

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物
化学的特性に関する情報	液剤
危険有害成分	
化学名又は一般名 濃度（範囲）	TritonX-100 (1-5% (w/v))
化学式	(C ₂ H ₄ O) _n C ₁₄ H ₂₂ O
CAS 番号	9036-19-5
労働安全衛生法政令番号	情報なし
PRTR 法政令番号	1-408

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	接触部位を直ちに水と石鹸でよく洗い、必要なら医師の診断を受ける。
目に入った場合	清浄な流水で、15分以上洗眼し、必要なら医師の診断を受ける。
飲込んだ場合	直ちに医師治療を受ける手配をする。無理に吐かせないこと。意識が無い場合は決して口からものを与えない。
応急措置をする者の保護	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災により、一酸化炭素、二酸化炭素等が発生することがある。
消火を行う者の保護	火災の場合は、自給式の呼吸器及び耐熱性保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	セクション7および8を参照。
環境に対する注意事項	自然水、下水、土壌中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法・機材	砂、珪藻土、ユニバーサルバインダー等の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、廃棄する（廃棄方法についてはセクション13. 廃棄上の注意を参照）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱	
技術的対策	セクション8. 曝露防止及び保護装置に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。

	火気注意。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 環境への放出を避けること。
保管	
適切な保管条件	容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。4℃で保管することが望ましい。酸化剤、酸、塩基から離して保管する。
容器包装材料	情報なし

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度	情報なし
許容濃度	
日本産業衛生学会	情報なし
ACGIH	情報なし
設備対策	情報なし
保護具	
呼吸の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的性状、形状、色など	透明な液体
臭い	情報なし
pH	1.8
引火点	情報なし
比重（相対密度）	情報なし
溶解度	情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱いは安定
危険有害反応可能性	通常の手扱いは危険有害な反応は起こらない
避けるべき条件	通常の手扱いでは特になし
混触危険物質	酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	通常の手扱いでは発生しない

11. 有害性情報

下記情報はポリ（オキシエチレン）＝オクチルフェニルエーテル物質としての情報である

急性毒性

経口

ラットを用いた経口投与試験の LD50=4,190 mg/kg (E0 9)、11,600 mg/kg (E0 9) (CERI ハザードデータ集 2001-42 (2002))、1,700 mg/kg (E0 8-10)、>28,000 mg/kg (E0 40) (CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006)) のうち、最も小さい値 1,700 mg/kg を適用して、区分 4 とした。(注) E0 : エチレンオキシド(オキシエチレン) の付加モル数を表す。

【注記】市場で流通している一般的な製品の E0 鎖長は 9～10 である (CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006)) ので、9E0 の製品の LD50=4,190 mg/kg から、区分 5 となる。

経皮

データなし

吸入(ガス)

GHS の定義による液体 (E0 9 及び 40) であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気)	データなし
吸入(ミスト)	データなし
皮膚腐食性／刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No. 105 (2006) のヒト疫学事例に、「E0 鎖の平均鎖長が 1、3、5、8～10、12～13 の OPE (OPE1、OPE3、OPE5、OPE8-10、OPE12-13) によって皮膚一次刺激性を生じなかった」、「E0 鎖長が 3 以上のポリオキシエチレン鎖をもつ OPE は皮膚一次刺激性を有しない」とあることから、皮膚刺激性なしと判断し、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	CERI ハザードデータ集 2001-42 (2002) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に「中等度の刺激性を示す」とあり、CERI・NITE 有害性評価書 No. 105 (2006) のウサギを用いた Draize 法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE6-8、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とあり、しきい値法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とあることから、中等度の刺激性を有すると考え、区分 2A とした。(注) OPE _n : E0 数が n である化合物を示す。
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	CERI・NITE 有害性評価書 No. 105 (2006) のヒトボランティアによる感作性試験の結果、「E0 鎖 3 以上で陰性」という記述から、「感作性を示さない」と考えられるが、事例報告が 1 例しかないため、「分類できない」とした。
生殖細胞変異原性	データ不足 (in vivo 変異原性データなし) のため分類できない。
発癌性	データなし
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回曝露)	データなし
特定標的臓器毒性 (反復曝露)	データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

[Propidium Iodid Solution]

2. 危険有害性の要約

GHS 分類の記載	
物理化学的危険性	区分外
健康に関する有害性	
生殖細胞変異原性	区分できない

封じ込めた後、廃棄する（廃棄方法についてはセクション 13. 廃棄上の注意を参照）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱

技術的対策

セクション 8. 曝露防止及び保護措置に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。消防法の規制に従う。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。充填、取り出し、取扱い時に圧縮空気を使用してはならない。接触、吸入又は飲み込まないこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保管

適切な保管条件

消防法の規制に従う。容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。酸化剤、酸、塩基から離して保管する。

容器包装材料

情報なし

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度

情報なし

許容濃度

日本産業衛生学会

情報なし

ACGIH

情報なし

設備対策

情報なし

保護具

呼吸の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。換気が十分でない場合には、適切な呼吸用の保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

適切な衣類を着用すること。しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服（例えば、酸スーツ）及びブーツが必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理的性状、形状、色など

液体

臭い

情報なし

pH

8.2

引火点

情報なし

比重（相対密度）

情報なし

溶解度

情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の手扱いは安定

危険有害反応可能性

通常の手扱いでは危険有害な反応は起こらない

避けるべき条件

通常の手扱いでは特になし

混触危険物質

酸化剤、強酸、強塩基

危険有害な分解生成物

通常の手扱いでは発生しない

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発癌性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回曝露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復曝露）	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

[RNAse]

2. 危険有害性の要約

GHS 分類の記載	
物理化学的危険性	区分外
健康に関する有害性	区分外
環境に対する有害性	区分外
GHS ラベル要素	
GHS 絵表示	なし
喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分	単一製品
化学的特性に関する情報	粉末
危険有害成分	なし

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	接触部位を直ちに水と石鹸でよく洗い、必要なら医師の診断を受ける。

目に入った場合 飲込んだ場合	清浄な流水で、15分以上洗眼し、必要なら医師の診断を受ける。 直ちに医師治療を受ける手配をする。無理に吐かせないこと。 意識が無い場合は決して口からものを与えない。
応急措置をする者の保護	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災により、一酸化炭素、二酸化炭素等が発生することがある。
消火を行う者の保護	火災の場合は、自給式の呼吸器及び耐熱性保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	セクション7および8を参照。
環境に対する注意事項	自然水、下水、土壌中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法・機材	掃除機などの機器を用いて浄化し、セクション13. 廃棄上の注意に従って処理を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱	
技術的対策	セクション8. 曝露防止及び保護措置に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。消防法の規制に従う。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。充填、取り出し、取扱い時に圧縮空気を使用してはならない。接触、吸入又は飲み込まないこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管	
適切な保管条件	消防法の規制に従う。容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。-20℃で保管するのが望ましい。酸化剤、酸、塩基から離して保管する。
容器包装材料	情報なし

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度	情報なし
許容濃度	
日本産業衛生学会	情報なし
ACGIH	情報なし
設備対策	情報なし
保護具	
呼吸の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。換気が十分でない場合には、適切な呼吸用の保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	適切な衣類を着用すること。しぶきの可能性がある場合は、

全面耐薬品性防護服（例えば、酸スーツ）及びブーツが必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理的性状、形状、色など	粉末
臭い	情報なし
pH	情報なし
引火点	情報なし
比重（相対密度）	情報なし
溶解度	情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱いは安定
危険有害反応可能性	通常の手扱いは危険有害な反応は起こらない
避けるべき条件	通常の手扱いは特になし
混触危険物質	酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	通常の手扱いは発生しない

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発癌性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回曝露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復曝露）	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

[Staining Buffer, Nuclei Extraction Buffer, Propidium Iodid Solution, RNAse 共通]

14. 輸送上の注意

国際規則	
国際航空機輸送協会危険物規則	I C A O / I A T A に規定に従う。 UN No : UN1789 Class:8 Packing Group:Ⅲ
国際海上危険物規則	I M O の規定に従う。 UN No : UN1789 Class:8 Packing Group:Ⅲ
国内規制	
陸上「鉄道／道路」	消防法の規定に従う。
内陸水路	該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
適用される法規制	P R T R 法（第1種指定化学物質）
16. その他の情報	
一般的注意	ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。
略記	P R T R 法:特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律